

「柏市学校における食育方針（案）」のパブリックコメントの実施結果

1 意見募集の概要

名称	柏市学校における食育方針（案）
意見提出期間	令和6年2月1日（木）から令和6年3月1日（金）まで
市民への周知方法	行政資料室（市役所本庁舎1階）、行政資料コーナー（沼南庁舎1階）、近隣センター、富勢出張所、柏駅前行政サービスセンター、学校給食課窓口、市のホームページ

2 結果の概要

提出された意見は次のとおりです。

意見提出者数	6人（9件）
インターネット	4人（6件）
ファクシミリ	1人（2件）
郵送	1人（1件）
直接持参	0人（0件）

3 学校における食育方針への意見と回答

No	意見	回答
1	・地元（柏や千葉）の食材をより多く使ったメニューを増やしてほしい。	学校給食で使用する食材は、可能な限り地場産物を使用することを心掛けています。 学校給食に柏産の野菜や米を使用することは、食育や農業振興にも大きな効果があるため、引き続き地産地消を推進してまいります。
2	・季節のメニューや郷土料理が出る日は、子どもたちにそれを説明して、その意味を理解しながら食べられるようにしてほしい。	学校給食における季節のメニューや郷土料理の提供は「郷土愛を育む」ことにつながると考えています。今後はこれらの献立提供を通じて、地域に愛着と誇りをもてるように取組を推進してまいります。
3	・（以前はそうだったように）果物を毎日出してほしい。	今後も栄養バランスのとれたおいしい給食の提供に努めてまいります。
4	・郷土料理や地産地消、食事のマナーや健康面などが網羅されていて素晴らしい案だとおもいます。オーガニック給食導入の動きもあるようですが、まずは基礎をしっかりと固めた子ども達の給食をよろしくお願いします。	

5	<p>・市として方針を持って食育に力を入れて行くことに興味を持ち、計画を拝見しました。学校ごとに生徒数や環境が違うため体験できる食育活動は異なると思いますが、できるだけ体験の場を設けるように年間の目標値があるのは望ましいように思います。自分で野菜を育てたり、農家の畑に行ってみて実際の育てる環境を見ることで作る難しさや食の有難みを感じられるのではないのでしょうか。家庭菜園で野菜を作っていますが、虫に食べられないように栽培時期を考えたり、必要に応じて農薬などの対策したりと工夫が必要ですが、その分日々自分が食べる物に対して興味関心を持つことができています。子供達にも体験する場を積極的に提供していきたいです。</p>	<p>食育方針の基本目標に掲げた「豊かな心を育む」を実現する上で体験活動は欠かせない取組であると考えているため、その充実に努めてまいります。</p>
6	<p>・柏市学校における食育方針を読み、「食の大切さを学び、生きる力と豊かな人間性を育む」という理念がしっかり考えられた内容だと思いました。また、学校給食を生きた教材と捉え、そのあるべき姿をよく表していると思います。21ページにあるように学校における食育は、学校全体で取り組んでいくもので、栄養教諭・栄養士がその中心に位置づけられています。このことから各学校に栄養教諭・栄養士が配置される自校式は素晴らしいと思います。ぜひ、これからも自校式の給食を推進し、旧沼南地域にも給食室のある学校を増やしてほしいと思います。</p>	<p>全教職員が連携・協力して学校における食育に取り組めるよう、体制整備を進めてまいります。</p>

7	<p>・太田市長は自校方式給食の「作り手が見える」ことの重要性を表明してくれました。作り手と子ども達が直接つながることは生きた教育につながっていると思います。時には給食室をのぞきに行き、調理員さんの大変さを目にし、感謝の思いを手紙に込めました。心の教育=食育です。各校に配属されている栄養士さんは食育の重要な役割をこなしています。教室をまわり栄養素や郷土食の話をしてくださいました。柏のカブやピーナッツ、郷土料理を生かした特別メニュー、栄養学習後、子ども自ら選択できるセレクト給食、6年生にはバイキング給食等、工夫した多彩な給食は子ども達の思い出ともなっています。家庭への呼びかけと合わせて学校でできる食育を大切にしてほしいと思います。</p>	前ページに同じ
8	<p>・推進体制の中心に栄養教諭及び栄養士が位置付けられていることは評価できますが、どの学校においても十分に実施するためには、栄養教諭及び栄養士が在籍することがひとつだと思います。旧沼南地区のセンター方式の学校には栄養士が少ないのではないのでしょうか。各学校の給食主任に負担にならぬよう子どもたちへの食育に目が届くよう栄養士を増やしてください。</p>	
9	<p>・生産者との連携についてはぜひ安全な食材を給食に用いるようお願いします。”千産千消”はもちろんですが、できるだけ農薬を使用しない食材をお願いしたいです。また、そのような創業・生産をしている方々を応援できる市であってほしいです。</p>	<p>有機食材の活用は、安定的な量の確保や規格、価格などの課題があるため、柏市ではそれらの課題解決に向け、農政部門と連携して調査・研究を進めています。</p>